<一般研究>

保健指導からみた母と子の諸問題

― 育児上の問題について ―

研究第5部　望月武子

Ⅰ 目的

子どものパーソナリティーの健全な発達を期するためには，乳幼児期においては母親の子どもに対する見方，接し方が重要な意義をもち，母子関係のあり方に負うところが大きい。

保健指導部における心理相談では，子どものパーソナリティーや母子関係の形成過程からみて重要な意義をもつと考えられる，9か月前後，1歳6か月前後，2歳6か月前後の3時点を把えて，子どもの発達状態を確認すると共に，母親の養育態度や母子関係などにも目を向けて指導をすすめている。この場合の重点はそれぞれの時期における一般的指導のみでなく，母親のもつ問題や不安に対応して，発達状態や活動性，行動傾向など異なる個々の子どもの特性の理解を助け，母親との間に調和的な望ましい関係を形成することを援助しようということである。したがって，心理相談を進めるにあたり，母親のもつ問題や不安を把握することが重要な意味をもつわけである。

今回は，3時点の心理相談時の内容を整理・分析することにより，母親がどのようなことを問題とし，いかなる不安をもっているか明らかにして，今後の心理指導の一助にすることを目的にした。

Ⅱ 方法

保健指導心理相談時の記録から，母親の訴えや主として話題になった事項をとりあげた他，予診時の母親の訴えの中から心理面とのかかわりの強いものをとりあげて整理した。

対象は57年4月から58年3月までに心理相談を受診した9か月～10か月児 448名，1歳5か月～1歳9か月児 360名，2歳5か月～2歳7か月児 312名である。対象児の性別，出生順位は表1－(1)～(3)に示した通りである。

表1－(1) 調査対象（0；9～0；10）

	男	女	計
第Ⅰ子	162	135	297
Ⅱ・Ⅲ子	75	76	151
計	237	211	448

表1－(2) 調査対象（1；5～1；9）

	男	女	計
第Ⅰ子	118	114	232
Ⅱ・Ⅲ子	69	59	128
計	187	173	360

表1－(3) 調査対象（2；5～2；7）

	男	女	計
1人っ子	79	86	165
第Ⅰ子	36	30	66
Ⅱ・Ⅲ子	43	38	81
計	158	154	312

Ⅲ 結果及び考察

1. 9～10か月時点の問題

この時点での母親の問題や心配は，主として身体面の発育や離乳食のすすめ方などの場合が多く，心理的な問題や不安を強く訴える例は比較的少ない。しかし，相談の場面では，特に問題や心配があるというわけではないがとしながらも，子どもの行動や親の接し方，しつけ上の疑問点が出されることが多い。

問題や心配の内容を領域別に概括したものが表2－(1)である。最も多いのが発達に伴って次第に明瞭になって来る子どもの性向や行動についての問題であり，対応に迷い，どのように対処したらよいかというもので，約37

表2－(1)　0；9～0；10の心理相談時の母の心配・問題

内容	男				女				計	
	第Ⅰ子		Ⅱ・Ⅲ子		第Ⅰ子		Ⅱ・Ⅲ子			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
発達上の問題	26	16.1	20	26.7	20	14.8	16	21.1	82	18.3
性向・行動	70	43.2	27	36.0	47	34.8	21	27.6	165	36.8
生活習慣	10	6.2	7	9.3	16	11.9	6	7.9	39	8.7
家族間の問題	7	4.3			3	2.2	1	1.3	11	2.5
きょうだい関係			6	8.0	2	1.5	2	2.6	10	2.2
集団生活	2	1.2			3	2.2			5	1.1
しつけに対する考え方	17	10.5	1	1.3	8	5.9			26	5.8
母親自身の問題	2	1.2			3	2.2	3	4.0	8	1.8
心配・問題なし	60	37.0	32	42.7	56	41.5	37	48.7	185	41.3
調査数	162		75		135		76		448	

%を占めている。この種の訴えは第2・3子（32%）に比べ第1子（39%）に，女児（32%）に比べ男児（41%）にやや多い傾向がみられている。

次いで多いのは，発達上の問題・不安であって，その出現率は第1子（16%）に比べ第2・3子（24%）が高くなっている。これは第1子を育てた経験からその発達に比較することが容易であることの他に，第1子に比べ2・3子では保健指導の利用自体が少なくなっている関係から，心配をもつものの割合が高くなるためではないかと推測される。

生活習慣の領域では食事に関する問題が大半を占めているが，この種の問題は栄養相談の場で相談されることが多く，心理相談の場で話題にされるのはその中の一部にすぎない。

その他，しつけに対する考え方としてまとめた中では，子どもの活動に対する許容と制限の限界，禁止のしかたが中心的問題であるが，少数に子どもの相手のしかたがわからないというものがあり，身近で乳幼児の生活を経験せずに母親になった場合のとまどいを表わしているものがある。

きょうだい関係としてまとめた中では，兄姉に手がかかり本人への十分な接触ができにくいというものが多く，家族関係の問題では祖父母との養育態度のくい違いや父親の理解不足を訴えている。母親自身の問題とした中には，自分自身の性格や育児観と子どもの示す行動への対処のしかたに関連して不安や気負いを表わしたものである。

訴えの多い領域の内容を，さらに具体的に示したものが表2－(2)～(3)である。

性向・行動に関する問題の中で多いのは，愛着の形成との関係で表われる，人見しりが激しい，あとおいが激しいなどの訴えであって，これらの行動がもつ発達の指標としての意味はある程度まで認識しながらも，母親は具体的な対応に困ったり，いらいらしたりする場合が多い。

このような訴えの背景には，子どもに自立した人格を望む傾向が強く，母親への依存欲求に応じることが甘えを助長し，独立心を阻害するのではないかという不安が存在する。また，母親自身の自由な時間を持ちたい，自分のペースで家事を処理したいなどの欲求から，子どもの依存欲求に十分に対応できない母親の存在も否定できない。概して母親への依存欲求への対応にとまどう訴えが多いが，少数に母を求めることが少なく，母親との関係が薄いようで気になるというものがあった。

次いで目立つのが夜泣きであって，程度の差は大きいがその訴えは7%のものにみられた。この中にはどんな対応をしても静まらずに母子ともに緊張を高めているものが少数あったが，他は母乳を含ませたり母親のベッドに入れれば静まるが，そのような対応の可否に疑問をもつものが多い。

同様に母親が対応にとまどう行動として，要求が強く，思い通りにならないと騒いだりそっくり返って怒るというものがあり，わがままになるのではないかと心配している。その他，指しゃぶり，噛みつく，頭を振る，頭を壁に打ちつける，髪の毛をひっぱるなど，子どもが反復して示す行動が何かの異常のサインではないかと心配さ

表2－(2) 性向・行動に関する問題

内容	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
愛着行動，人みしり，あとおいなど	20	8	10	5	43	9.6
母との関係薄いよう			1	2	3	0.7
夜泣き	15	7	6	5	33	7.4
指しゃぶりなどくせ	14	3	10	4	31	6.9
要求強く，そっくり返って怒る	10	2	9	2	23	5.1
その他の行動	11	7	11	3	32	7.1
食生活の問題	7	6	14	3	30	6.7
排泄・睡眠	3	1	2	3	9	2.0
計	80	34	63	27	204	45.5

表2－(3) 発達に関する問題

内容	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
発育・発達がおそい	3	2	4	1	10	2.2
運動発達がおそい	8	14	10	8	41	9.2
外界への働きかけ，反応弱い	14	3	3	4	24	5.4
身体トラブルによる心配	1		1	3	5	1.1
異常出産のため心配		1	1		2	0.5
計	26	20	20	16	82	18.3

表3 0；9～0；10相談時の経過観察の理由

	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
発達の遅れ	3	4	2	1	10	2.2
母子関係希薄	5		3		8	1.8
母の不安・ストレス強	2		3		5	1.1
養育態度	2		2		4	0.9
計	12	4	10	1	27	
受診数との割合%	7.4	5.3	7.4	1.3		6.0
受診数	162	75	135	76	448	

表4－(1)　1；5～1；9の心理相談時の母の心配・問題

内容	男				女				計	
	第Ⅰ子		Ⅱ・Ⅲ子		第1子		Ⅱ・Ⅲ子			
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
発達上の問題	29	24.6	25	36.2	21	18.4	13	22.0	88	24.4
性向・行動	73	61.9	30	43.5	60	52.6	26	44.1	189	52.5
生活習慣	17	14.4	8	11.6	21	18.4	3	5.1	49	13.6
家族間の問題	1	0.9			4	3.5	1	1.7	6	1.7
きょうだい関係	4	3.4	2	2.9	2	1.8	5	8.5	13	3.6
友だち関係	10	8.5			10	8.8	1	1.7	21	5.8
集団生活	1	0.9					1	1.7	2	0.6
しつけに対する考え方	12	10.2	3	4.4	7	6.1	1	1.7	23	6.4
母親自身の問題					2	1.8			2	0.6
心配・問題なし	25	21.2	21	30.4	29	25.4	25	42.4	100	27.8
調査数	118		69		114		59		360	

表4－(2)　性向・行動に関する問題

内容	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
思うようにならないとかんしゃく	23	8	18	13	62	17.2
人みしり，人になれにくい	9	4	9	4	26	7.2
あとおい激しい，甘え強い	5	4	8	1	18	5.0
対人関心うすい	2				2	0.6
動きが激しい	9	2	2	1	14	3.9
夜泣き	7	2	3	2	14	3.9
指しゃぶり，他くせ	17	7	15	5	44	12.2
その他	1	3	5		9	2.5
計	73	30	60	26	189	52.5

表4－(3)　発達に関する問題

内容	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
ことばが遅い	22	16	15	9	62	17.2
運動発達が遅い	2	2	3	3	10	2.8
働きかけ・反応が弱い	3	5	1		9	2.5
身体トラブルによる心配	2	2	2	1	7	1.9
計	29	25	21	13	88	24.4

れている。

発達に関する問題としては（表2－(3)），ねがえり，すわる，這うなど運動機能の発達の遅れを心配するものが最も多く，その他に，反応が少ない，人みしりをしない，食物を口に持っていかない，喃語発声が少ないなど，子どもの行動に細かく注目して発達の異常があるのではないかと心配している。

9～10か月時点では全般的にみて，深刻な問題は少ないが，子どもの示す行動の一つ一つが心配になっており，とくに第1子を育てるにあたってその傾向が強い。

心理相談で経過観察の対象になったものは27名，6％である。表3はその問題内容を示したものであるが，発達の遅れが疑われるものと母子関係に集約される。とくに母子関係や養育上の問題は第1子の場合に多く，初めての経験で不安をもちやすいことや，乳児の生活や精神的発達についての理解不足があり，養育上の問題や子どもへの接し方に問題を認めたものである。この中の半数は母子交渉が少なく関係の希薄さが心配されるものである。この他，経過観察の対象にはなっていないが，母親は問題なしとしている185名の中に，母子交渉の不足や養育上の問題が認められたものが22名・12％ある。具体例を示すと，母親が子どもを育てることの意味の把握が弱く，人まかせになっていて母親が育児の中心にいない場合や，子どもを預けるのに都合よくするため早期からあちこち預けて慣れさせているとか，物を独占したりあきやすい子に育てたくないから常に玩具は一つだけ与えるようにしているとか，幼いうちに物の善悪を教えたいからと厳しい制限や禁止をしたり，べたべたした親子関係が嫌いだからと子どもとの接触を楽しまないなどがある。このような例は少数にすぎず，また，この時点では子ども自身の発達的な問題としては表われていないが，親が問題に気づいていないだけに，放置された場合には将来的に精神発達に歪みを生来する危険性をもつものであろう。

2. 1歳6か月時点の問題

1歳5か月から1歳9か月までの子どもが，この時期の心理相談の対象になっている。この時期では9～10か月時に比べて心理的問題の訴えが多くなり，子どもの行動やそれへの対処についての疑問や迷いが増加している。問題や心配なしというものが28％に減少し，大多数のものが何らかの相談事項をもってきている。

その内容を領域別に示したものが表4－(1)である。性向，行動に関する訴えが最も増加しており，発達上の問題もやや増加している。

その内容をさらに詳細にみたものが表4－(2)，(3)である。最も多いものが，かんしゃく，次いで，場や人になれにくい，甘えが強い，指しゃぶりを筆頭に種々な習癖などがあがっており，発達上の問題ではことばの遅れを心配するものが目立って多くなっている。

特に異常があるというものは少ないが，子どもの成長発達に伴って次第に強く明確になる欲求や，多様化する行動に対して，子どもの欲求に応えながら母親自身の養育態度の変換も必要とする時期であるため，親も問題意識をもって相談を求める姿勢が出てくるためであろう。

生活習慣の領域では，食生活に関するものが大部分を占め，この時期では食事量が少ない，むら食い，遊び食いなどが目だっている。排泄のしつけをどう進めるか，トイレやおまるをいやがるなどの訴えが出始め，この領域の¼程度を占めている。

家族間の問題では祖父母の子どもへの接し方をめぐって，甘すぎる，禁止が多すぎるというもの，父親の協力が得にくいなどがあるが，その数は減少している。

きょうだい関係の問題では次子出生を迎えて半数が弟妹をいじめたり，退行を示すものであり，半数は兄姉との争いへの対応のしかたを求めるものである。また，友だちとの接触の機会が増加するのに伴って，他の子に乱暴する，玩具をとるなどの訴えと，母親にまつわりついて遊べないという訴えとが二分して出てきている。この種の訴えが第1子のみに表われているところからみて，発達的に当然みられるような行動でも，初めての子どもを育てるにあたってはそれが問題としてとらえられ心配されていることがわかる。

しつけに対する考え方の中では，子どもの行動について許容の限界をどこにおくか，何を禁止すべきか，けじめを何によって教えるか，体罰の是非などが中心で，手づかみで食べる，汚い手を口に入れる，物を投げるなどこの時期の子どもが示す行動にどう対応し，どうしつけてよいかわからないという迷いもみられる。

この時点で経過観察の対象になったものは69名，19％であり，これも9～10か月時に比べその割合は急増している。表5はその内容を示したものであるが，発達に伴って子どもの問題が顕在化してくることや，前記の養育態度の変換に伴い母子関係の調整を要する場合が増加するためと考えられる。

ことばの遅れに関して経過観察の対象になっているものが多いが，対人行動の問題と分類したものは自閉的とは言えないが，多動で人とのかかわりがもちにくく人からの働きかけに応じにくい子どもで，母親の訴えは，いうことをきかない，動きが激しい，ことばが遅いなどとして表われている。この中の7名については9か月時点

表5　1；5～1；9相談時の経過観察の理由

	男		女		計	総数との割合 %
	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子	第Ⅰ子	Ⅱ・Ⅲ子		
ことばの遅れ	9	4	3	4	20	5.6
対人行動の問題	7	1	4		12	3.3
全般の遅れ	2	2	2	2	8	2.2
不安強く不適応	4	2	1	1	8	2.2
情緒不安定	3		1	2	6	1.7
母子関係希薄	2	1		3	6	1.7
母の不安・ストレス	2		2		4	1.1
養育態度	2		2	1	5	1.4
計	31	10	15	13	69	
受診数との割合 %	26.3	14.5	13.2	22.0		19.2
受診数	118	69	114	59	360	

で母子交渉が少ないことが心配され，積極的な働きかけを行うよう特に助言されていたケースであり，乳児期の養育態度との関連が考えられる。

不安強く不適応と分類されているものは，母親との分離経験や，子どもの依存欲求への母親の対応に適切さを欠くなどにより，未知の場や経験に極端な不安を示しているものであり，親も子どもへの対応に迷いや混乱を生じている場合が少なくない。

母子関係や養育態度の中で，関係希薄としたものは，母親の性格や，人まかせの育児などにより，本人との接触や交渉が不足し，子どもの精神発達に歪みを生じる危険性を心配されたものである。この他，子どもの精神発達段階への理解が不十分なため，おとなの視点から要求の押しつけになり，しっかりした子に育てたいからと叱ることが多くなったり，逆に子どもの好き放題にさせ親のしつけに対する態度が示せなかったり，子どもの反応に感情的になって怒るなど，母子関係の不調和が見られる。これは，乳児期の密着した母子関係とは異り，自律のためのしつけが開始され，養育態度を変換していく移行期にあたるため，母子関係の再構成をめぐって問題や不安を生じやすいからであろう。また，しつけにあたって，子どもの発達や行動の特性を考慮しながら，その子に適した方策を導きだすことが必ずしも容易でないことによるものであろう。

この時点でも，親が問題なしとしている100名の中に子どもの発達や母子関係で要注意とされたものが18名・18%あった。

3.　2歳6か月時点の問題

2歳6か月時点では，日常生活の中で母親が扱いに困ったり気にしていることがあるか別紙のアンケートを求め，それを心理相談の手がかりとしているが，親が扱いに困り気にしている行動の内容とその訴えの出現率は表6の通りである。

最も多いのが食生活に関する問題で61%までが気になる行動としてあげている。ついで，反抗，睡眠に関する問題，甘える，友だち関係についての問題があげられている。食生活に関するものでは食事量が少ないというものに代って，遊び食いが最も多くなり，間食を欲しがる，偏食などがこれに続いており，自我の発達に伴い自己主張の強さを物語っている。睡眠に関する問題では添寝しないとねないというものが大部分を占めている。添寝を問題とするか否かは親により考え方の差が大きく，一人っ子では気にしているものが多い。

友だち関係の問題では，友だちと遊べない，友だちの中に入っていけないという訴えは減少し，玩具のとりあい，友だちを叩くなどが増加してきていて，ここにもこの時期の特徴が表われている。

臆病である，怖がるものがあるというものが30%を占め，生活領域や経験の拡大に伴い，子どもが怖がるものが増えてきている。怖がるものとして最も多いのが虫で，大きな音，暗い所，犬ねこなどの動物，ブランコ，すべり台，高い所がこれに続いてあげられ，お化け，鬼，雷，白衣，髭のある男の人など，対象も広範囲になり，多彩なものがあげられている。

表6　2歳6か月時で母親が気になる行動

	N	%		N	%
わがまま	97	31.1	初めての場・人になれにくい	75	24.0
甘える	112	35.9	友だち関係	104	33.3
反抗	127	40.7	きょうだい関係	39	12.5
かんしゃく	75	24.0	食事の問題	189	60.6
泣き虫	78	25.0	睡眠の問題	120	38.5
臆病	95	30.5	排泄の問題	73	23.0
乱暴	42	13.5	くせ	75	24.0
おちつきなし	41	13.1	発達上の問題	55	17.6
引込思案	43	13.8	家族間の問題	15	4.8

くせの内容は指しゃぶりが最も多く16%を占め，他は少数ではあるが，ガーゼやタオルへの執着，オナニー，爪かみ，チックなどがある。

発達上の問題ではことばの遅れが最も多く，ことばがはっきりしない，ことばにつまるなど，ことばの問題が比較的多く，他に運動神経が鈍い，覚えが悪いなどがある。

これらの行動は親の目からみた問題や気になる行動であって，親のとらえ方には大きな差がある。反抗やかんしゃくなど親が気にしていても，客観的にみて問題とはいえない場合が多い。しかし，問題があるかないかということの他に，親が問題として気にしているというところに指導上の意味があると考えられる。

親が気にしている行動を性別にみたものが図1である。概して目立った性差はないが，乱暴，おちつきがない，添寝しないと寝ないは男児に多く有意差が認められる。

同様に，親の気になる行動を一人っ子，第1子，2～3子の別にみたものが図2である。全体的にみて問題の訴えは2～3子に低く，第1子に高い傾向がみられる。とくにかんしゃく，臆病，友だち関係，食事，睡眠に関する問題ではその傾向が顕著であり有意差が認められる。第1子では友だちの中に入れない，玩具のとりあい，一人で食べない，ねつきが悪い，夜泣きが多くなっており，次子出生をめぐって子どもが欲求不満を強めたり情緒的安定を欠き，母子ともに問題を生じやすい状態にあるといえる。

2～3子についてみると，この他すべての行動について問題の訴えが低くなっているが，くせについてのみ2～3子にその出現が高くなっているのが特徴的であり，指しゃぶりの出現が目立って多くなっている。親の神経質な対応は少なく，兄姉など行動のモデルの存在により生活場面への適応はよい反面，場合によっては親とのかかわりの不足があり，指しゃぶりによりストレスを自己制禦していると見ることができるのではないだろうか。

その他の環境条件として祖父母同居の有無別に問題の訴えについてその出現をみたが，祖父母と同居している子どもでは，わがままで，臆病，引込思案の傾向があり，玩具のとりあいは少ないが友だちの中へ入りにくく，間食を欲しがることが多く，添寝しないとねないが，排泄のトラブルやくせは少ないという傾向がみられる。

この時期はいわゆる反抗期で，子どもの自己主張が強く，親としてはその扱いに苦慮しているため，問題なしとしたものは僅か10名にすぎず，心理面の相談を積極的に求める親が多くなっている。

以上，心理相談を実施している3時点について，母親が問題とし心配する内容について概観した。

子どもの発達に伴い心理面の問題や心配は増大している。その内容は子ども自体に異常や障害があると考えられるものは少なく，多くの場合は発達的な問題であるが，親はその扱いに迷い，適切な対応を誤まる場合が少なくない。核家族化が進み，少子化傾向の中で，子どもを知らず，育児に自信をもてない親が増えてきて，子どもの発達的変化に対応しきれず，ある場合は不安をもち，ある場合は混乱して，かえって問題を増幅する例も少なくない。また，子どもの精神発達についての理解が不十分なため親が発達のために必要な援助を怠って，次の段階で扱いに苦慮する場合もみられる。

発達的な問題であるだけに，初期の段階で発達の見方や子どもへの接し方を助言するなど，僅かな調整により望ましい母子関係を維持，発展することが可能になる。したがって，子どもの精神発達の節目ごとに，発達を確認し母親の不安に対応することの意味は大きいものがあ

る。特に，親は問題がないとしている中に，専門的にみて，発達や母子関係の問題を見出す例が少数ながら認められていることからみても，そのことは強調される。

全般的にみて，子どもの生活を知らず，精神発達についての理解が不十分であるため，不安や困惑が強く，また適切なかかわりを持つことができない例が多いといえる。したがって，乳幼児期の精神発達の理解と，それぞれの発達段階で重要な意味をもつ親のかかわり方についての理解を深めるための母親教育の必要性が認められる。また，理解はあっても具体的対応策に迷う親が多いことからみて，個々の子どもの特性の理解を助け，それぞれ

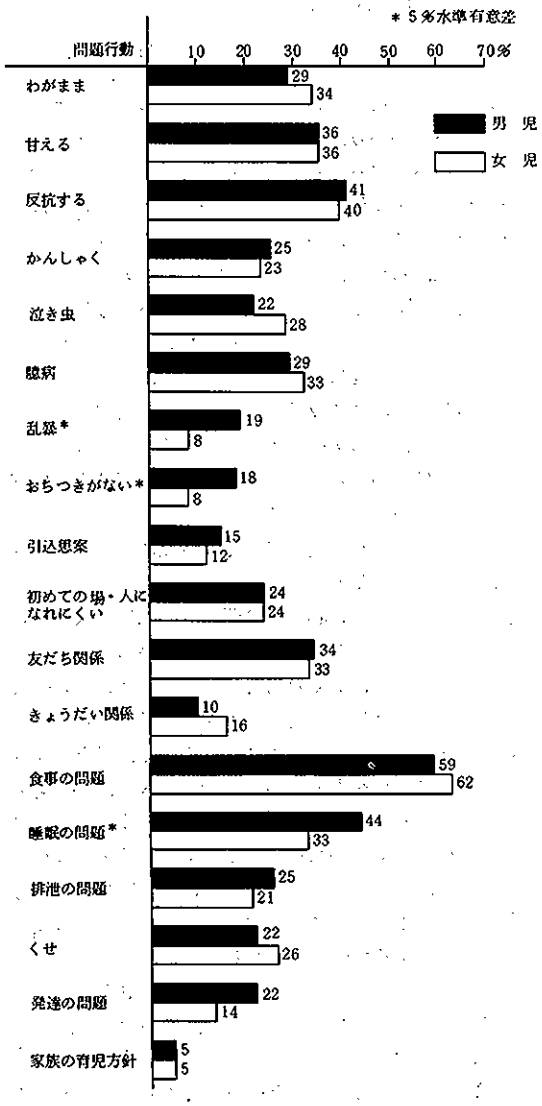

図１　親が気になる行動，性別による比較

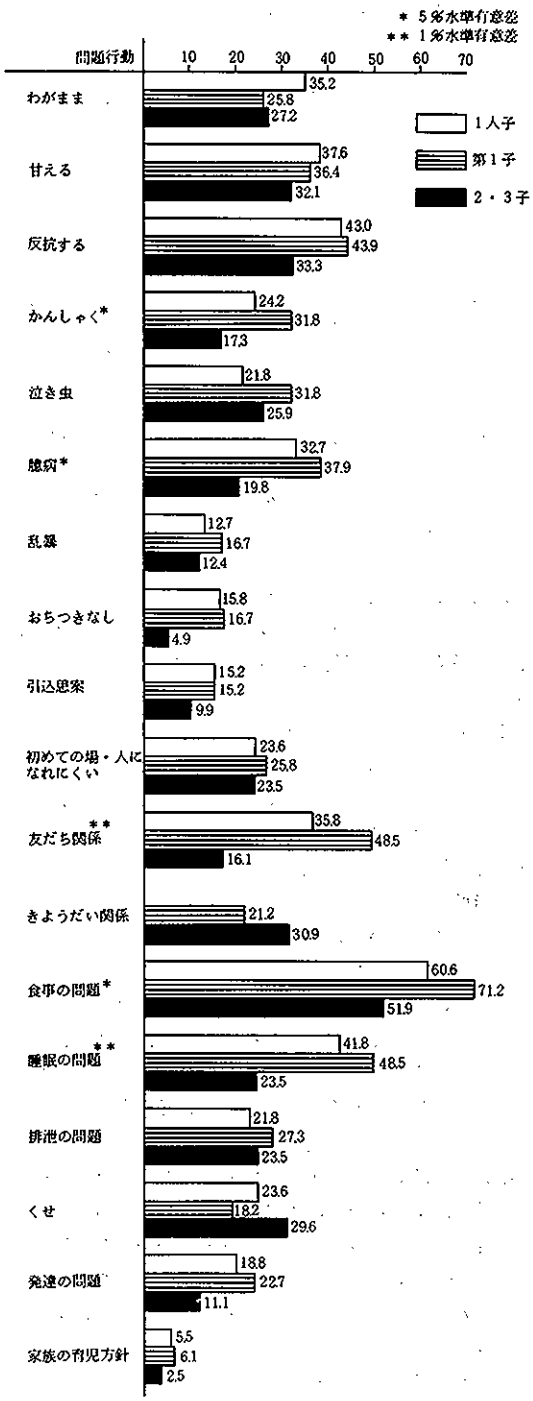

図２　親が気になる行動，出生順位による比較

の家庭，母子に適した養育を見いだすことができるような個別的な指導や援助を行うことができる場も必要であろう。

Ⅳ 要 約

9か月，1歳半，2歳半の時点で行っている保健指導心理相談の内容を整理，分析して，母親がもつ育児上の問題を検討した。調査数は9か月 448名，1歳半 360名，2歳半 312名である。

1. 9か月時点の問題

9か月時点では，母親の関心は健康，栄養面に傾いており，心理的な心配は比較的少ない。また，深刻な訴えは少ないが，子どもの示す行動の一々が心配されており，とくに第1子を育てるにあたってその傾向が強い。

この時期では愛着の形成と関連して，人みしり，あと追いなどにみられる依存欲求への対応に迷う親が多く，次第に強まる要求や行動にどう対処したらよいか，具体策を求めるものが多い。その背景には甘えに対する見方や受容についての迷いがある。養育上の問題としては，精神的発達への理解に欠けるため，親の役割の認識が弱いもの，一人遊びへの要求が強く，子どもとの交渉の不足が心配される例が少数あった。

2. 1歳半時点の問題

1歳6か月時点では，心理的な問題や心配を訴えるものが急増している。子どもに異常がある場合は少なく，多くは発達過程でみられる行動である，かんしゃく，未知の人や場への不安，甘え，くせ，食事の問題などで，具体的な接し方を求めるものが多い。

この時期は，強く明確になって来た子どもの欲求や多様化する行動に対応して，乳児期とは異なる養育態度へ変換していく移行期にあたるため，親はその対応や子どもへの姿勢に迷い，問題や不安をもちやすい。また，このような母子関係の再構成をめぐり関係の調整を要する場合が増加している。発達上の問題では，ことばの遅れに対する心配が目立って多くなっている。

3. 2歳半時点の問題

2歳6か月時点では，アンケートから母親が扱いに困り，気にしている行動をとらえた。

いわゆる反抗期で，子どもの意志主張が激しい時期であるため，親は扱いに苦慮し困惑することが多い。とくに，次子の出生を迎えた第1子に問題傾向が強く，項目全般にわたって問題の訴えが多いが，友だち関係，食事，睡眠の問題ではこの傾向がとくに顕著である。次子出生をめぐって，子どもは欲求不満を強め，親はゆとりを失って，母子とも問題を生じやすい状態にある。

総体的にみて，子どもの成長，発達に従って心理的な問題や心配は急増している。その中には親自身の問題や子ども自体の障害に基づくものもあるが，多くは発達過程で表われる問題である。したがって，とくに異常があるというものではないが，親は扱いに迷い具体的な対処のしかたを求めている。そこには，子どもの行動や欲求の発達的変化に対応しきれず困惑している親の姿がみられ，中には対応を誤り，問題を拡大したり母子関係を歪めている例もある。多くが発達的問題であるだけに，初期の段階で僅かな調整を行うことにより，望ましい母子関係を維持，発展できる可能性は大きい。

子どもの精神発達についての理解を深め，それぞれの段階で必要，有効な援助ができるようにするための母親教育と，個々の母子の問題や不安に対応して適切な援助や指導を行う場の必要性が認められる。

Study On Problems in Regard to Mothers and Their Children : Problems Relating to Child care

Takeko MOCHIZUKI

In this study, some data which had been obtained from psychological interview in health guidance were analysed and the problems relating to child care were investigated. Health guidance was carried for mothers who had children of nine-months-old, one and a half-years-old or two and a half-years-old. The number of subjects was 1120 (0;9-448, 1;6-360, 2;6-312).

Mothers of nine-month-old children leaned their interests toward health or nourishment, while they made few complaints of serious psychological problems.

Such compliants, however, increased among mothers of one and a half-year-old children. So many mothers of two and a half-year-old children were confused about how to treat their children who showed selfassertive behabiours at the stage of so-called the period of rebelliousness.

Generally speaking, psychological problems and worries of mothers were increasing in accordance with the growth and development of their children. It seemed there were more problems brought about in the process of development than the problems stemming from parents themselves or the handicaps of children. Although I could not identify the specific abnormalities, mothers were worried and sought after some practically adequate treatments.

Though this result, I could take a peep at a typical figure of the mother who was not able to conform to the developmental change in the behaviour and need of her children. Some mothers, failing to treat adequately their children, spread their problems or distorted mother-child relationship. It is possible to keep up and develop desirable mother-child relationship by providing mothers only a few suggestions at the early stage of the problem, since most of the problems are those found in the course of the development of children.

I recognized the necessity of the maternal education through which mothers deepen their knowledge on child development and can provide necessary and available support for their children, and furthermore, of the field where adequate informations and guidance are given in regard to the mother-child problem or mother's anxiety.

望月：保健指導からみた母と子の諸問題

調　　査　　票

No.			
氏名	男 女	年齢	歳　　月

現在，次のようなことで扱いに困ったり，気にしていることがありますか，あったら○で囲んで下さい。

1. わがまま
2. 甘える，　　親から離れない
3. いうことをきかない，　　反抗する，　　ききわけがない
4. かんしゃくをおこす
5. 泣き虫，　　痛いことがあってもあまり泣かない，　　表情が乏しい
6. 臆病，　　怖がる（どんなものを　　）
7. 乱暴
8. おちつきがない
9. おとなしすぎる，　　引込み思案，　　消極的
10. 初めての場や人になれにくい，　　人みしりが強い
11. 友だちと遊べない　友だちの中に入れない，　　いじめられる
    玩具のとりあいが多いい，　　押したり叩いたり手を出す
12. 弟妹をいじめる，　　兄姉とけんかが多い
13. 食事の問題　食が細い，　　偏食，　　遊びながら食べる
    間食をほしがる，　　ひとりで食べようとしない
14. 睡眠の問題　　ねつきが悪い，　　夜泣き，　　添寝しないとねない
15. 排便の問題　　おむつがはずせない，　　トイレをいやがる
16. くせがある（どんなこと　　）
17. 子どもの発育・発達について心配がある
    （どんなこと　　）
18. 家族で育児方針がくい違う
    （どんなこと　　）
19. その他　（　　）